

S D G s 先進都市おおさかの実現 - いのち輝く未来社会のデザイン -

2021年6月26日
大阪府エネルギー政策課

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



S D G s と大阪





SDGs と大阪の親和性

○開放性

大阪は、国内外の玄関口として、日本の重要拠点として、内外から多くの人やモノを受け入れ、様々な知識や技術を取り入れながら発展



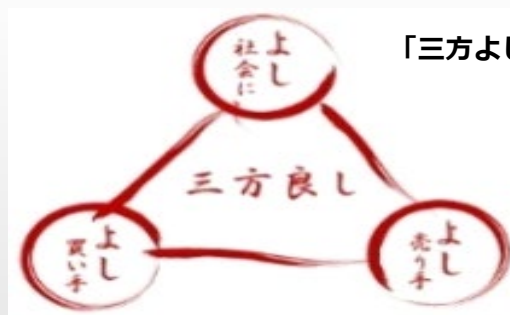
水都大阪の発展



G20大阪サミット

○社会貢献

「三方よし」、「水道哲学」に代表されるように、社会貢献、公利公益の精神を重んじる気質



「三方よし」近江商人



松下幸之助の語録に基づく
経営哲学「水道哲学」

○先取

大阪人は進取の気質に富み、世界標準となる新たな社会システムや、産業、製品等を数多く生み出してきた。

先物取引市場



※出典：大阪市立図書館HP

サントリー創業者
鳥井信治郎の言葉
「やってみなはれ」



※出典：サントリーグループHP

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）

◆テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

“Designing Future Society for Our Lives”

◆開催期間：2025年4/13～10/13(184日間)

◆開催場所：夢洲（大阪市臨海部）

◆入場者（想定）：約2,800万人

◆経済効果：約2兆円



O s a k a S D G s ビジジョン

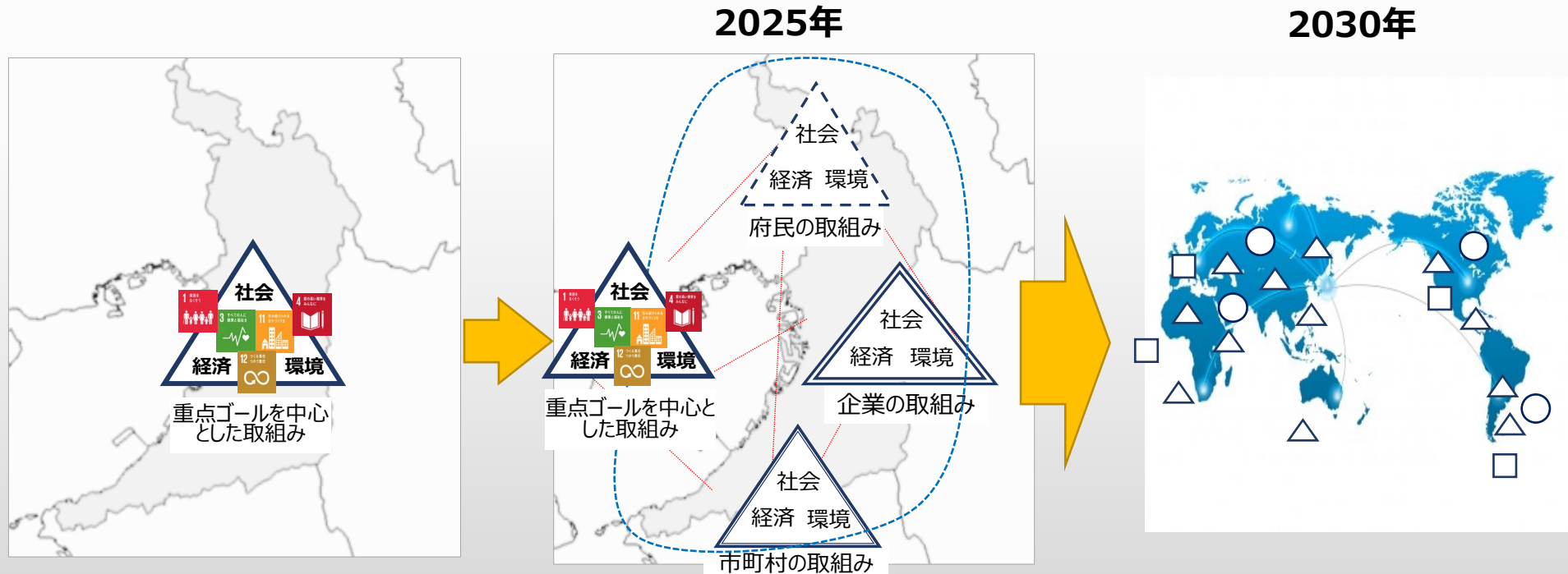




SDGs 先進都市に向けて

SDGs先進都市 ⇒ 世界の先頭に立ってSDGsの達成に貢献

誰もがSDGsを意識し、一人ひとりが自律的にSDGsの達成をめざす大阪を実現



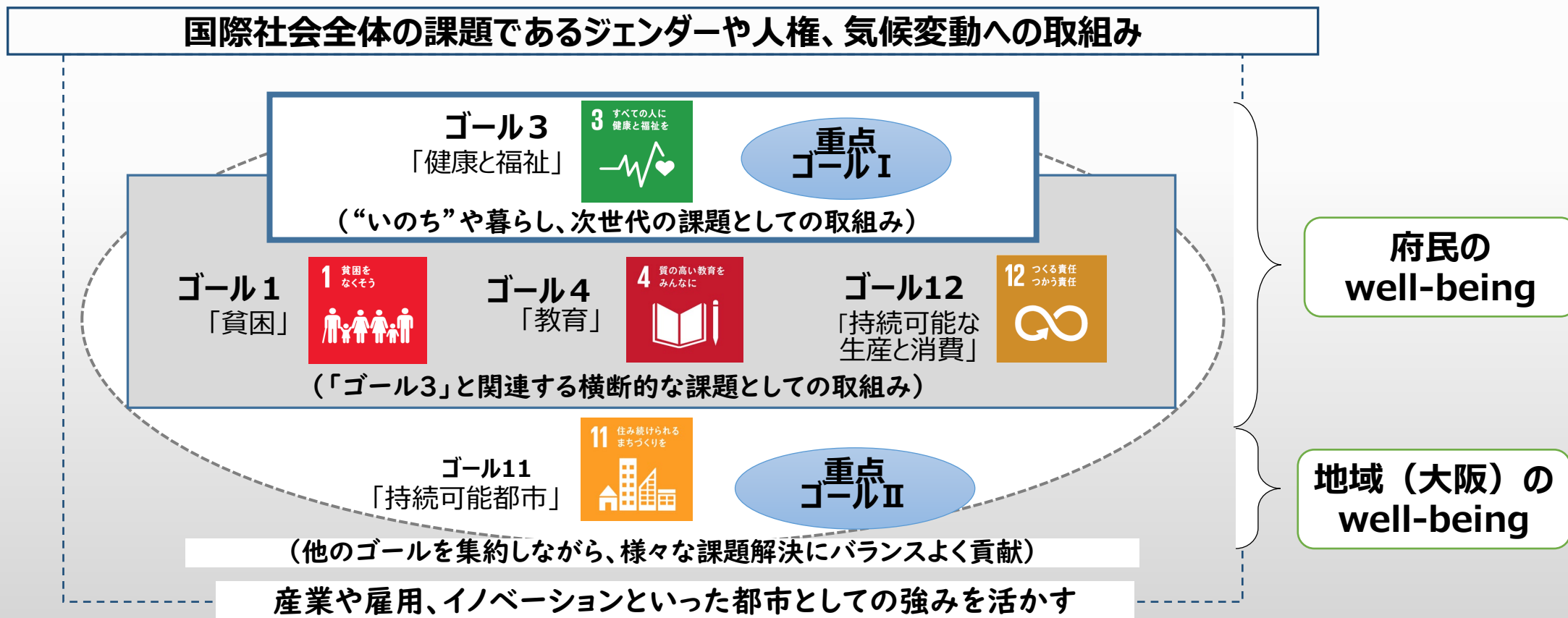
万博において、大阪のあらゆるステークホルダーが、会場の内外でSDGsを体現し、行動する姿を世界に発信

日本全体や世界とのつながりの中で、先頭に立って、世界とともにSDGsを達成する



重点ゴール

◆2025年大阪・関西万博に向けて取り組む「重点ゴール」



SDGs 未来都市





SDGs 未来都市計画（大阪府・大阪市）

タイトル

2025年大阪・関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて

SDGs未来都市 計画概要

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博の開催都市として、行政だけでなく、府民や企業、市町村、金融機関、経済界などあらゆるステークホルダーとの連携を広げつつ、2030年のあるべき姿に向け、一人ひとりがSDGsを意識し自律的に行動する「SDGs先進都市」の実現をめざす。





2030年のあるべき姿

①いのち輝く幸せな暮らし（Human Well-being）

- ・健康や福祉など、人々の命や暮らしに関わる様々な社会課題の解決に向けた行動を、未来社会に向け呼びかけていくことが求められる。
- ・こうした考え方のもと、**誰もが取り残されることなく**、すべての命が大切にされ、人と人とのつながりの中で、全ての人が生涯にわたって、自らの能力や可能性を発揮し、**健康でいきいきと活躍できる社会の実現をめざしていく**。

②多様なチャレンジによる成長（Diverse Innovation）

- ・ライフサイエンスやものづくりなど強みとなる産業の成長とバランスの取れた産業構造が安定した大阪経済の成長の土台となっており、近年は、輸出額の増加やインバウンドの増勢に伴い経済は回復傾向にある。
- ・こうしたポテンシャルを活かし、都市の魅力や寛容性を高め、**多様な人材を呼び**、様々なことにチャレンジできる環境を整え、**新たな価値観やイノベーションの創出を図るとともに、地球環境を守る取組みを進めることで、持続的な成長に向けた取組みを推進していく**。

③世界の未来をともにつくる（Global Co-Creation Hub）

- ・世界では、地球規模での環境問題のほか貧困などの追加的課題が進行。また、科学技術の急速な発展は、社会課題を解決する重要な力ギとなる反面、不平等や格差の拡大など負の側面を招く恐れがある。
- ・世界各地の叡智が集まり、世界のベクトルを一つにできる万博開催都市として、誰もが世界とつながり、SDGsの価値観が大阪から世界に広がり、人々に共有され、**「ひとを救い、地球を守る」、ソーシャルグッドな取組みを推進していく**。



2030年のあるべき姿と優先ゴール

17のSDGs全ての達成をめざす中で、とりわけ、課題を克服すべきゴールや世界に貢献できるゴール（※重点ゴール）に注力
※OSAKA SDGs ビジョンにおける重点ゴール（ゴール3：健康と福祉、ゴール11：持続可能都市）





自治体 S D G s の推進に資する取組

1 おおさかええまちプロジェクト

高齢者の介護予防にもつながる活躍の場を、プロボノによる直接的支援等を通じた住民主体の支え合いにより構築し、生涯を通じ健康でいきいきと暮らし続けることのできる社会の実現をめざす

2 健康寿命の延伸

10の健康づくり活動「健活10」を活用した健康づくりや、電子マネーが当たる「おおさか健活マイレージ“アスマイル”」の展開などオール大阪での健康づくりの機運醸成と社会環境整備を推進していく

3 子どもの貧困対策

子どもの将来が生まれ育った環境で左右されることのないよう、子どもの居場所や企業、社会福祉施設等のネットワークの運営で、企業等から物資提供の支援を受ける仕組みづくり等に取り組む

4 府立学校等のスマートスクール化に向けた取組

教育の質の向上を図るため、知的障がい者支援学校におけるVRを活用したソーシャルスキルトレーニングや、学習履歴や出欠・生活指導状況の可視化など、スマートスクールモデルを確立

5 海洋プラスチックや気候変動の問題解決に向けた環境技術イノベーションの戦略的な促進と普及に向けた取組

化石燃料に依存しないプラスチック等の循環利用技術など、環境先進技術シーズ調査や、効率的な空調システム実用化など、環境技術のイノベーションの戦略的促進と普及を図る

6 食品ロス削減対策の推進

様々な食文化を有する大阪から、持続可能な食の消費のあり方を確立するため、食品ロスの発生動向の調査や食品ロス削減に向けた機運醸成、食べ残しゼロの推進に向けた事業者との連携など、食品ロスの削減に向けた取組みを推進していく



情報発信

大阪府域

- ① 公民連携による民間事業を通じた情報発信
- ② 民間の集客施設や集客イベントの実施を通じた情報発信
- ③ 府民や企業との対話を通じた情報発信

国内

- ① 「関西SDGsプラットフォーム」を通じた情報発信
- ② 「ローカルSDGsプラット」を通じた情報発信
- ③ 国内個別自治体からの視察や問合せを通じた情報発信

海外

- ① 2025年大阪・関西万博の開催に向けた取組みを通じた情報発信
- ② JETRO大阪本部との連携を通じた情報発信
- ③ 大阪商工会議所との連携を通じた情報発信
- ④ IGESのプラットフォームを通じた情報発信
- ⑤ 国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）との連携を通じた情報発信
- ⑥ 認定NPO法人ETICの海外起業家／有識者ネットワークと連携した情報発信



情報発信（事例）

大阪府・大阪市では、阪急阪神ホールディングス(株)が2009年から取り組んでいる「ゆめ・まちプロジェクト」の10周年を記念して、2019年5月から阪急電鉄と阪神電気鉄道において運行が開始された「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」に、府市の取り組み紹介や啓発を目的としたポスターを掲出



（上左） UNEP・GECとの連携による「プラスチックごみゼロ」への取り組み紹介・啓発ポスター（2019年掲出）

（上右） 大学連携ポスタープロジェクト第2弾作品

「プラスチックごみゼロ」啓発ポスター（2019年掲出）

（右） 2021年6月8日（火）から掲出の「海洋プラスチックごみ」啓発ポスター

「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」 URL : <https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/sdgstrain/top.html>



自治体SDGsモデル事業

■ 2030年のあるべき姿

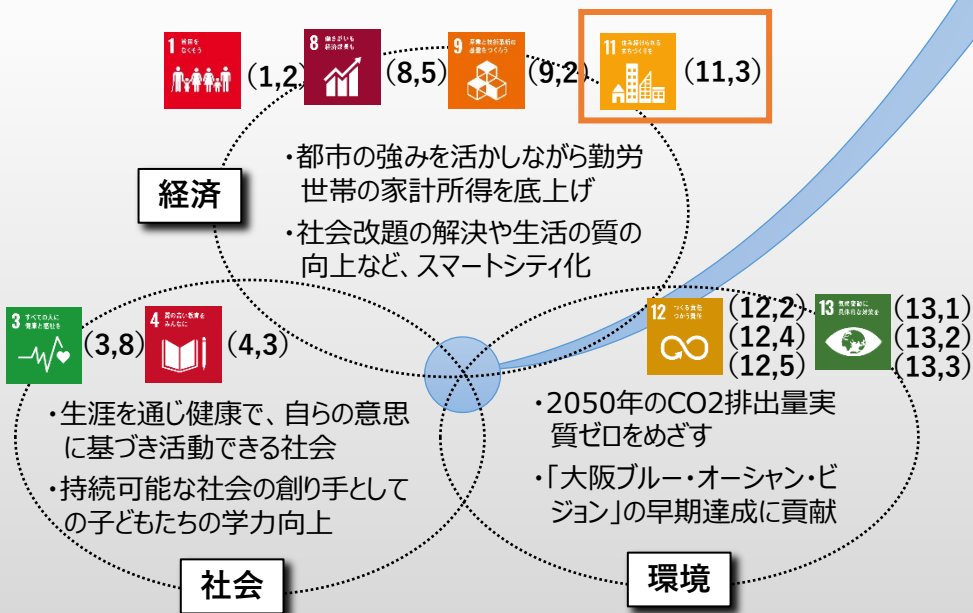
いのち輝く
幸せな暮らし

多様なチャレンジ
による成長

世界の未来を
ともにつくる

■ あるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

17のSDGs全ての達成をめざす中で、とりわけ、課題を克服すべき
ゴールや世界に貢献できるゴール（重点ゴール）に注力



※ 重点ゴールの分析手法が「第3回ジャパンSDGsアワード」受賞

■ 自治体SDGsの推進に関する取組

あるべき姿の実現に向けた優先的なゴールやターゲットを踏まえ、次の
先導的な取組を実施。様々なステークホルダーとの連携を広げていく。

1 おおさかええまちプロジェクト

・高齢者の介護予防にもつながる活躍の場を、プロボノによる直接的支援等を通じた住民主体の支え合いにより構築し、生涯を通じて健康でいきいきと暮らし続けることのできる社会の実現をめざす



2 健康寿命の延伸

・10の健康づくり活動「健活10」を活用した健康づくりや、電子マネーが当たる「おおさか健活マイレージアスマイル」の展開などオール大阪での健康づくりの機運醸成と社会環境整備を推進していく



3 子どもの貧困対策

・子どもの将来が生まれ育った環境で左右されることのないよう、子どもの居場所や企業、社会福祉施設等のネットワークの運営で、企業等から物資提供の支援を受ける仕組みづくり等に取り組む



4 府立学校等のスマートスクール化に向けた取組

・教育の質の向上を図るため、知的障がい者支援学校におけるVRを活用したソーシャルスキルトレーニングや、学習履歴や出欠・生活指導状況の可視化など、スマートスクールモデルを確立



5 海洋プラスチックや気候変動の問題解決に向けた環境技術イノベーションの戦略的な促進と普及に向けた取組

・化石燃料に依存しないプラスチック等の循環利用技術など、環境先進技術シーズ調査や、効率的な空調システム実用化など、環境技術のイノベーションの戦略的な促進と普及を図る



これら、重点ゴールを中心にSDGsの取組を進める中で、最も広く様々なステークホルダーに関りがあり、他の自治体等への波及も見込まれ、三側面の統合効果が創出されるSDGsの特性をわかりやすく体现できる事業を、「自治体SDGsモデル事業」として取り組んでいく



自治体SDGsモデル事業

【目的】

- 日本で初めて大阪で開催された「G20大阪サミット」の象徴的レガシーである「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン（※）」を世界に先駆けて先導する

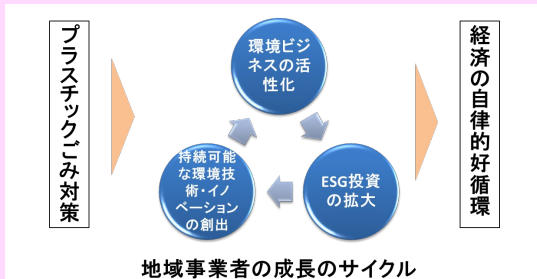
【概要】

※ 2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることをめざす世界共通のビジョン

- 経済、社会、環境という三側面から、3 R（リデュース、リユース、リサイクル）などの普及啓発や、環境先進技術シーズ調査、海ごみの回収などに府域全体で幅広く取り組み、それらの成果が集約された具体的な行動の一つとして、「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」を確立していく

①経済面の取組

- ①-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ①-2 バイオプラスチックビジネス等推進事業
- ①-3 国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）との連携事業
- ①-4 水・環境技術の海外プロモーション事業



②社会面の取組

- ②-1 マイボトル・マイバッグの普及促進
- ②-2 公共空間における給水スポット設置事業
- ②-3 大阪湾の環境改善と府民の環境意識向上
- ②-4 環境問題に取り組む若者の育成
- ②-5 資源集団回収活動によるコミュニティビジネスの振興



無料給水機の設置

マイバッグ協定

③環境面の取組

- ③-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ③-2 大阪湾におけるマイクロプラスチック、海洋漂着ごみの実態調査
- ③-3 大阪湾の海ごみの回収事業
- ③-4 ごみの減量と3Rの啓発推進事業
- ③-5 小・中学校での「おおさか環境科」の実施



大阪湾のマイクロプラスチック調査の様子

三側面をつなぐ統合的取組

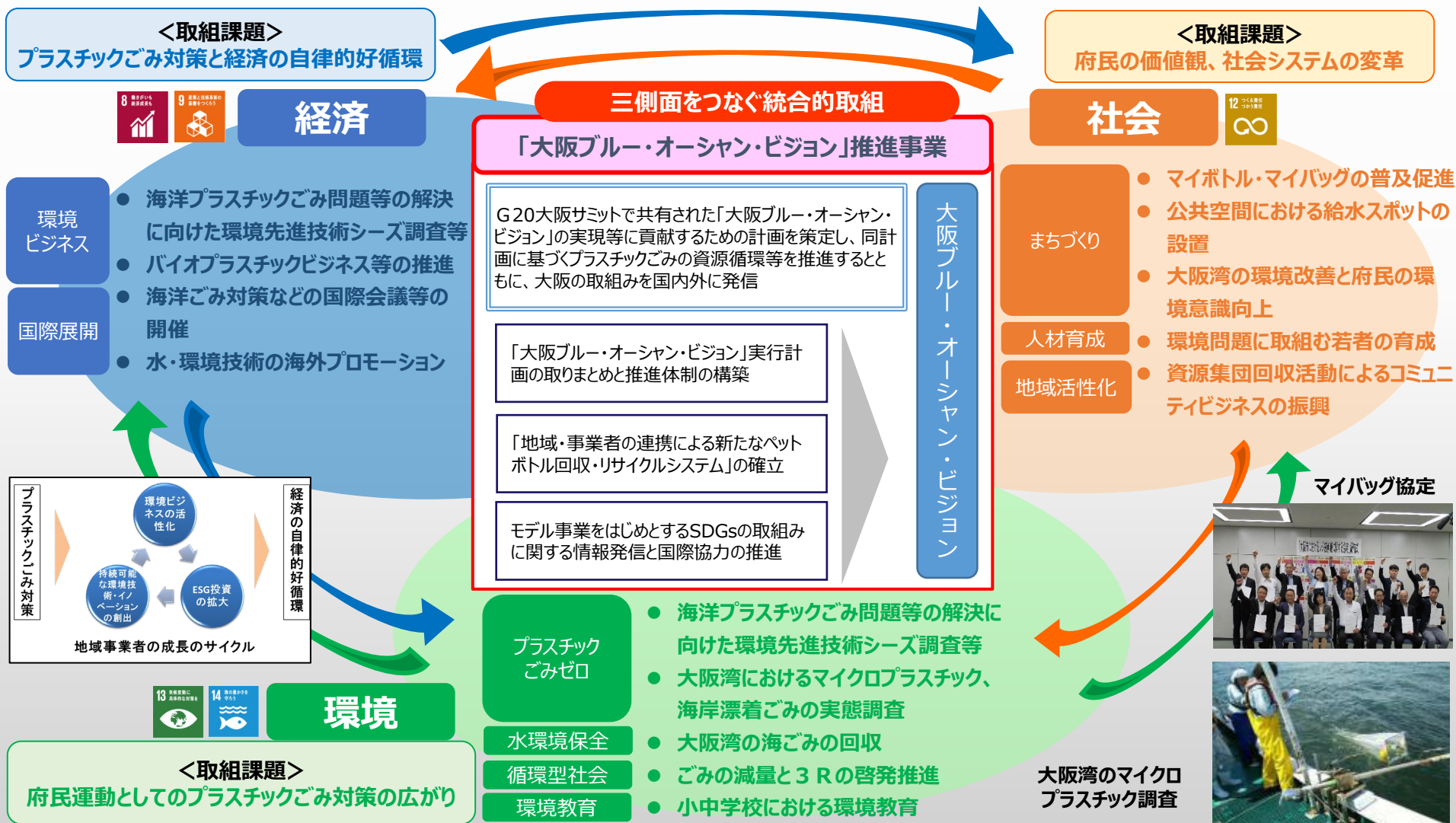
「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

- ①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の取りまとめと推進体制の構築
- ②「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の確立
- ③モデル事業をはじめとするSDGsの取組みに関する情報発信と国際協力の推進



自治体SDGsモデル事業

大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト





府の海洋プラスチックごみ対策

- 回収 -

①河川・海岸ごみの回収

府民、市町村等と連携し、海岸、河川区域におけるプラスチックを含むごみなどの回収・清掃活動を実施



大和川・石川クリーン作戦

②海ごみの回収

漁業関係者や市町村と連携し、国の補助事業により、海ごみの回収等を実施



漁業関係者の協力による海ごみ回収の様子

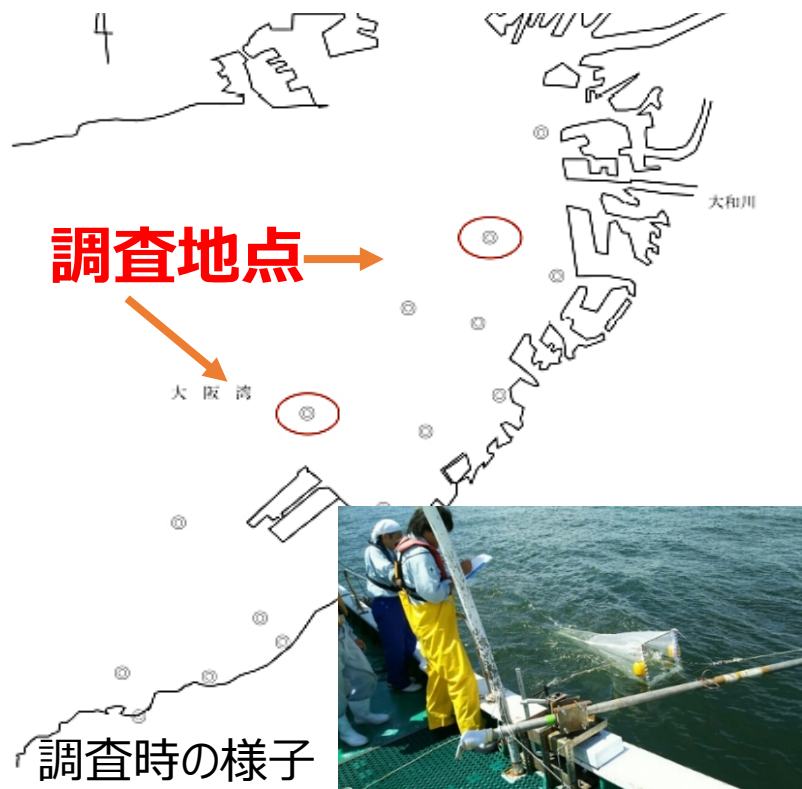


府の海洋プラスチックごみ対策

- 調査 -

① マイクロプラスチック実態把握調査

大阪湾の南北2か所で
調査を実施し、結果を公表



【調査結果】

	令和元年9月5日 (前日夕刻に降雨有り)	令和元年12月6日 (晴天時)	令和2年11月24日 (晴天時)
大阪湾北部	4.1 個/m ³	0.18個/m ³	0.06 個/m ³
大阪湾南部	0.05個/m ³	0.03個/m ³	0.03個/m ³

(参考) 環境省によるマイクロプラスチック個数調査結果(個/m³)

大阪湾 (H27)	瀬戸内海6地点平均 (H27)	太平洋沖合 (高知県～鹿児島県 3地点平均 (H26))
0.75	0.35	15.75

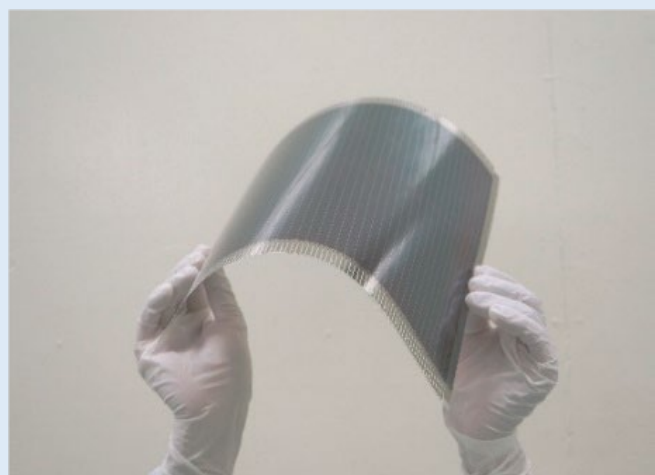


府の海洋プラスチックごみ対策

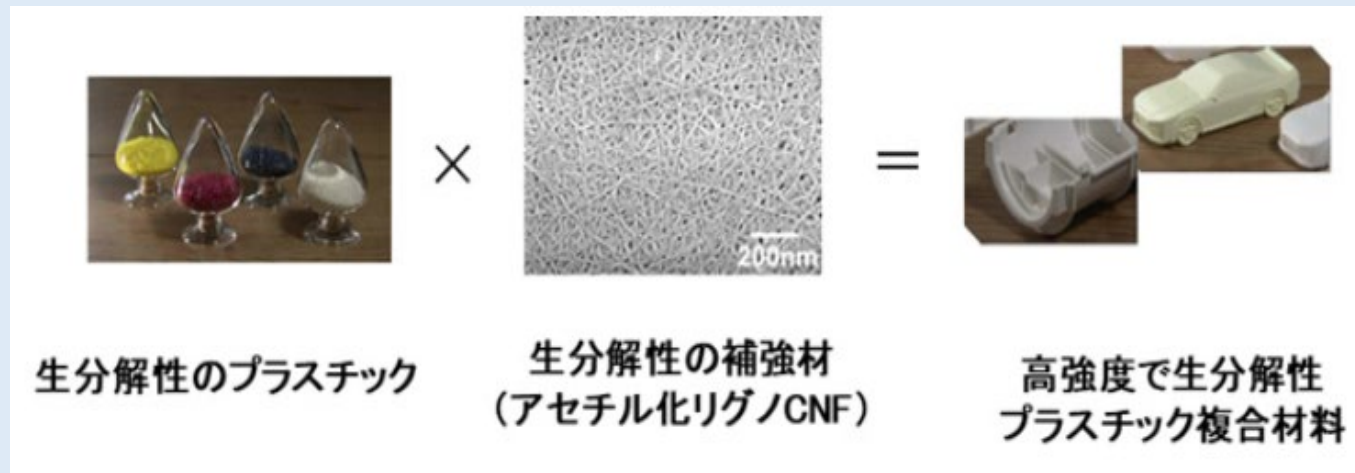
- 調査 -

②環境・エネルギー技術シーズ調査・普及啓発事業（R3～）

- 気候変動・海洋プラスチック問題の解決に向けた環境の長期目標達成に必要で、**2030年から2050年頃までに実用化が見込まれる革新的な技術**のシーズ調査や国内外のニーズ調査を実施
- 2年目以降は、地域普及シナリオ・課題解決・促進手法の検討、産学官タスクフォースによる検討、およびシンポジウム・情報集による普及啓発に取組み、それらの**取組みを海外にも発信**



ビル壁面等への設置が可能となる
太陽電池の技術例（出典：NEDO）



強度不足が弱点の生分解性プラスチック（自然界の微生物で分解可能）の
用途を広げる高強度化の技術例（出典：国立研究開発法人産業技術総合研究所）



府の海洋プラスチックごみ対策

- 環境学習・啓発 -

①エコバスツアー

**大阪湾の魅力スポットを巡りながら、
海洋プラスチックごみ問題等の環境学習を実施**

第1回（2019年8月）
親子を対象に生物観察会や海岸
の清掃を行う環境学習を実施

第2回（2019年11月）
写真撮影会を開催しながら
ごみ拾いを行う環境学習



②広報物作成やイベント出展

**企業と連携したポスター、チラシに
よる啓発や、環境イベント、SNSなど、
様々な媒体を通じて情報発信**





府の海洋プラスチックごみ対策

- 企業等と連携した取組み -

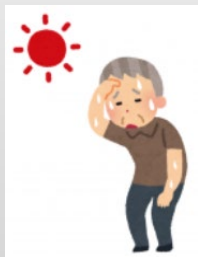
2020年3月

「おおさかマイボトルパートナーズ」キックオフ

⇒様々な主体と連携し、マイボトルの普及による使い捨てプラスチックの削減を目指す

マイボトルを持つメリット

こまめな水分補給は**熱中症予防**になります



ペットボトルの購入を控えれば、**プラスチックごみの削減**になります



保冷・保温効果のあるマイボトルは、**省エネ効果**があります



吉村府知事も愛用



象印マホービン(株)
マスコットキャラクター ぞうさん



大阪府広報担当
副理事 もずやん



府の海洋プラスチックごみ対策

- 企業等と連携した取組み -

「おおさかマイボトルパートナーズ」について

ボトルメーカー、給水機メーカー、環境NPO、市町村、水道事業者など31団体で構成

【構成員】(2021年4月1日時点)

○事業者（18社）

象印マホービン、タイガー魔法瓶、ピーコック魔法瓶工業、オルゴ、ボトルト、ウォータースタンド、OSGコーポレーション、ウォーターネット、日産自動車販売、有限会社曽田印刷、FM802、大和ハウス工業、良品計画（無印）、BRITA Japan、ベッド通販セラピス、アストラゼネカ、三菱ケミカル・ケルシン、イモタニ

○NPO・団体等（6団体）

SDGサポーターズ、水Do！ネットワーク、大阪府民会議、日本おもてなし倶楽部、一般社団法人Social Innovation Japan、地域環境デザイン研究所 ecotone

○水道事業者（1事業者）

大阪市水道局

○行政（6市町村）

大阪府、大阪市、堺市、吹田市、泉大津市、熊取町

参加者募集！



【取組目標】

2025年までに

○新たな給水スポット
1,000箇所の設置

○マイボトルを日常的
に携帯する人の割合
80%



府の海洋プラスチックごみ対策

- 企業等と連携した取組み -

おおさかマイボトルパートナーズの具体的な取組み

マイボトルの利用啓発



咲洲こどもEXPO2020



スポGOMI大会inいずみおおつ2020

給水スポットの普及



水色スイッチ（大阪市水道局）

効果的な情報発信



ロゴ・POP・のぼりの作成と活用

パートナーズ会議

